タイムライン展をふりかえる
——現代美術の保存・修復・記録をめぐって

「タイムライン——時間に触れるためのいくつかの方法」展 企画シンポジウム vol. 2

日時：6月8日（土）13時から

場所：京都大学総合博物館 講演室

聴講無料
ただし別途入館料が必要になります

TIMELINE:
Multiple measures
to touch time



土方大《Artificial Garden》2019 | 100×4000×4000mm | サイズ可変 | 尿素結晶、人造石、ターポリン

京都大学総合博物館2019年度企画展「タイムライン——時間に触れるためのいくつかの方法」の関連企画として、2回にわたってシンポジウムを開催いたします。

「タイムライン展をふりかえる——現代美術の保存・修復・記録をめぐって」と題した第2回目は、現代美術の展示、収蔵、保存、修復、アーカイヴなどに関する諸問題やケーススタディを中心に、議論の主題を広く設定しながら、「タイムライン展」の総括を行います。

登壇者：

実験と体験 1983–2000 Sagacho Exhisibit Space

小池一子 十和田市現代美術館館長／クリエイティブディレクター

生産者たちの時間

住友文彦 アーツ前橋館長／東京藝術大学大学院准教授

「タイムライン」展の時間軸：現在進行形の保存、記録の更新、予防的修復

田口かおり 東海大学創造科学技術研究機構講師／修復士／本展実行委員

学芸員の領分

牧口千夏 京都国立近代美術館主任研究員

司会：

岡田温司 京都大学教授／本展覧会実行委員長

主催：「タイムライン」展実行委員会／日本学術振興会科学研究費（基盤研究A）「現代美術の保存と修復」（代表：岡田温司）